

「山木屋在来ソバ」の栽培特性（川俣町、飯舘村）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 営農再開支援事業

小事業名 営農再開段階に応じた新技術の導入と既存技術の体系化

研究課題名 山木屋在来ソバの栽培実証（川俣町、飯舘村）

担当者 菅野拓朗、三本菅猛

I 新技術の解説

1 要旨

川俣町山木屋地区では、在来品種「山木屋在来ソバ」が栽培されているが、栽培特性に不明な点が多い。そこで、「山木屋在来ソバ」の栽培を実証し、「会津のかおり」と比較した結果、生態型が「会津のかおり」に近く、子実重が「会津のかおり」を下回るが千粒重と容積重が同程度であることが明らかとなった。

- (1) 山木屋地区では全ほ場で「山木屋在来ソバ」を栽培しており、他品種を栽培すると交雑により採種できなくなるため、条件の近い飯舘村前田地区の畑において8月3日に「山木屋在来ソバ」を10a当たり4.7kg、「会津のかおり」を10a当たり4.9kg条播した。
- (2) 「山木屋在来ソバ」の開花期・成熟期は「会津のかおり」より1日遅い程度で、生態型が「会津のかおり」と同じ夏型に近い中間型であると推察された（表1）。
- (3) 「山木屋在来ソバ」の成熟期の生育形質は、主茎長が「会津のかおり」と同等であるが分枝数がやや多く、どちらも倒伏が見られなかった（表2）。
- (4) 「山木屋在来ソバ」の収量は、子実重では「会津のかおり」を下回ったが千粒重と容積重については同程度であった（表3）。

2 期待される効果

- (1) 「山木屋在来ソバ」の栽培に取り組む際の資料として活用できる。

3 活用上の留意点

- (1) 基肥として $N-P_2O_5-K_2O=2-5-3$ (10a 当たり成分 kg)を施用した(放射性セシウム吸収抑制対策として塩化カリを別途施用)。また、苦土石灰を10a 当たり30kg 施用した。
- (2) 「山木屋在来ソバ」は開花期が「会津のかおり」とほぼ重複しており、種子を採取する目的で栽培する場合は両品種のほ場の距離を十分確保する必要がある。

II 具体的データ等

表1 山木屋在来ソバの生育ステージ

品種	播種期 (月/日)	出芽期 (月/日)	出芽数 (本/m ²)	開花期 ¹⁾ (月/日)	成熟期 ²⁾ (月/日)	開花日数 ³⁾ (日)	登熟日数 ⁴⁾ (日)
山木屋在来ソバ	8/03	8/10	154 ± 17	9/07	10/04	28	27
会津のかおり	8/03	8/10	137 ± 11	9/07	10/03	28	26

1)開花期…全体の40～50%が開花した日 2)成熟期…全子実の70～80%が成熟した日

3)開花日数…出芽期～開花期までの日数 4)登熟日数…開花期～成熟期までの日数

表2 山木屋在来ソバの成熟期の生育形質

品種	主茎長 (cm)	主茎節数 (節)	分枝数 (本/株)	茎径 (mm)	倒伏程度 (0-4)
山木屋在来ソバ	83.3 ± 8.6	8.9 ± 0.9	2.0 ± 1.0	3.7 ± 0.6	0.0
会津のかおり	78.2 ± 6.5	8.0 ± 0.8	1.3 ± 1.0	3.7 ± 0.5	0.0

表3 山木屋在来ソバの収量

品種	全重 (kg/10a)	子実重 (kg/10a)	千粒重 (g)	容積重 (g/L)
山木屋在来ソバ	210 ± 4	32.6 ± 0.3	21.1 ± 0.3	548
会津のかおり	190 ± 32	51.5 ± 2.5	22.6 ± 1.3	580

注)容積重は各反復をまとめて測定しているため標準偏差なし

III その他

- 1 執筆者 菅野 拓朗
- 2 実施期間 令和3年度
- 3 主な参考文献・資料 なし